

令和3年 3月

小田美紀子 学位論文審査要旨

主 査 南 前 恵 子
副主査 前 垣 義 弘
同 吉 岡 伸 一

主論文

Factors influencing psychological independence in adolescents and their relationship to coaching-based support from significant others

(青年期の心理的自立に影響する要因と重要他者からのコーチングに基づく支援との関連)

(著者：小田美紀子、吉岡伸一)

令和 3年 Yonago Acta Medica 64巻 34項～45項

参考論文

1. コーチングによる積極的認知対処・自然散策・温泉入浴によるメンタルヘルス対策への効果—自記式質問紙による主観的データの分析結果—

(著者：小田美紀子、藤田小矢香)

平成30年 日本医学看護学教育学会誌 27号 No. 2 29頁～35頁

学 位 論 文 要 旨

Factors influencing psychological independence in adolescents and their relationship to coaching-based support from significant others

(青年期の心理的自立に影響する要因と重要他者からのコーチングに基づく支援との関連)

青年期の引きこもりや家庭内暴力など社会的不適応を来す者が増加している。その背景に、青年期の発達課題の一つである心理的自立に関する深刻な葛藤が存在すると報告されている。青年が自立していく過程で、友人や親以外の重要な他者からの支援は、重要な役割を果たすが、どのような関係性や関わり方が心理的自立に促進的な影響をもたらすかについて、十分な検討がなされていない。そこで本研究では、社会的不適応の予防及び治療に役立てるため、青年期の心理的自立を促す重要他者を明らかにし、心理的自立の影響要因と重要他者からのコーチングに基づく支援と自尊感情、心理的自立との関連について調査した。

方 法

A県内の2大学、1短期大学の全学年の学生1,814名に対し、無記名自記式調査票を用いた質問紙調査を行った。調査項目は、対象者の属性、重要他者からのコーチングに基づく支援としてAccelerate your Coaching Effectiveness (Ayce)、心理的自立として心理的自立尺度 (PJS-2)、自尊感情としてローゼンバーグの自尊感情尺度を用いた。分析は、心理的自立への影響要因の検定は重回帰分析を用い、平均値の検定には、一元配置分散分析を用い、多重比較検定にはTukeyの検定を用い、尺度間の関連性は、ピアソンの積率相関係数の検定を用いた。有意水準は5%とした。

結 果

有効回答は1,114名 (有効回答率61.4%)、学生の年齢は18~24歳 (平均年齢19.2)、性別は女性が761名 (68.3%)、男性が353名 (31.7%)であった。心理的自立に最も影響を与えた重要他者は、男性は「母」「父」「友人」の順に多く、女性は「母」「友人」「父」の順に多かった。また、青年期の心理的自立には、性別、学年、専攻、現在の暮らしが影響要因となることが明らかとなった。男女ともに、自尊感情と重要他者からのコーチングに基づ

く支援の「主体性の尊重」、「視点の変化」、「目標・行動の明確化」との間に有意な正の相関が認められた。女性は、重要他者からのコーチングに基づく支援と心理的自立のすべての下位尺度の間に有意な正の相関が認められた。男性は、心理的自立の「自己統制」について重要他者からのコーチングに基づく支援の「視点の変化」との間に、有意な正の相関が認められた。しかし、「主体性の尊重」と「目標・行動の明確化」の間には有意な相関は認められなかった。それ以外の尺度間では有意な正の相関が認められた。さらに、男女ともに自尊感情と心理的自立のすべての下位尺度の間に有意な正の相関が認められた。

考 察

青年期の心理的自立に影響を与えた重要他者として、「母親」が最も多かったことから、心理的自立への親の影響は、青年期にある子ども自身も主観的に感じていることが明らかとなった。男女ともに重要他者からのコーチングに基づく支援のすべての下位尺度と自尊感情尺度得点との間に有意な正の相関が認められ、重要他者からのコーチングに基づく支援は自尊感情を高めると考えられた。自尊感情と心理的自立との関連について、男女ともに自尊感情尺度得点と心理的自立のすべての下位尺度との間に正の相関が認められた。また、重要他者からのコーチングに基づく支援は、男性、女性ともに自尊感情を高め、女性では心理的自立のすべての下位尺度を促す上で有効であり、男性では心理的自立の「自己統制」以外の「将来志向」「適切な人間関係」「価値判断・実行」「責任」「社会的視野」を促す上では有効であった。しかし、男性では、重要他者からのコーチングに基づく支援は、自尊感情を高めるには有効であったが、コーチングの「主体性の尊重」と「目標・行動の明確化」の支援は「自己統制」を促すことにはつながっていなかった。重要他者はコーチングを学んだコーチでないため、特に「目標・行動の明確化」は行っているにもかかわらず目標の達成に向けての支援が継続されていたか明らかでない。「自己統制」の発達には男女差があると言われ、青年期の男性に対する自己統制を促す支援について、今後男女の特性を含めた検討が必要であると考えられる。

結 論

重要他者からのコーチングに基づく支援は、女性では、自尊感情を高め、心理的自立のすべての下位尺度を促し、男性も、自尊感情を高め、心理的自立の「自己統制」以外の「将来志向」「適切な人間関係」「価値判断・実行」「責任」「社会的視野」を促していることが明らかになった。本研究の結果から、重要他者からのコーチングに基づく支援は、自尊感情を高め、青年期の若者の心理的自立を促すのに有効であることが示唆された。